「東日本大震災」災害支援だより

第5号　2011 年9月 10 日発行

全国移動ネット災害支援の会　〒156-0055 東京都世田谷区船橋 1－1－2　山崎ビル 204 号

◆問合せ先◆
全国移動ネット
TEL03-3706-0626
E-Mail
info@zenkoku-ido.net

巻 頭 言

災害支援の会プロジェクト　代表・柿久保浩次

震災から半年、夏も終りに近づいて被災地周辺には多数の仮設住宅が建設され、当初の避難所の多くが閉鎖されている。市街地を流されたかつての街並みは、がれきの大半が撤去されてはいるが、海のそばのその平坦な土地には何もない。避難された方は以前の生活の場所から離れた仮の住まいで、新たな生活を自力で始めることを余儀なくされている。多くのものを失った方々に対して、今、我々ができることをもう一度考えたい。

●活動報告

1. 概要報告(2011 年7月上旬～8月下旬)

●「震災から半年、今できることを」(災害支援の会事務局)

７月、８月と以前に比べて、多くの方々が仙台、石巻周辺に支援活動で来てくれた。今回はその様子と、７月末に仙台で全国移動ネット災害支援の会の第２回だらだら会議を開催したことや、山本理事がＪＣＮ（東日本大震災支援全国ネットワーク）の中に「移動支援チーム」を立ち上げて、省庁連絡会議で、「被災地における生活移動の保障の提言」を提出してくれた内容を報告する。

2. 被災地から…地域で芽生える力と つづく支援活動

●北茨城から「助け合い、支えあってこその地域をめざして」(ウィラブ北茨城／高松志津夫)

震災から早くも５か月が過ぎ、世間ではなんとなく過去形で語られ始めていることに、人の生活力の根源を見ているようです。しかし、現在も未だに避難所生活を余儀なくされている方たちが数万人もいることも現実です。

日本という国を大きな家族ととらえるならば、きょうだいが災難に耐え忍んでいる状況で、私たちにできることは息の長い支援…寄り添って生きていく覚悟をしなければならないと思うのです。

私ができる支援は本当に微力なものですが、たゆまない歩みで支えていけたらと思っています。

○瓦版を始めました！

あすなろ村集会所(雇用促進住宅中郷宿舎)に集う方々に向けて、７月に『あすなろ瓦版』(発行責任者：ウィラブ北茨城。不定期発行)を創刊しました。一時的にせよ、同じ地域に暮らし、同じ水を飲む住民同士の連帯感を深めることを目的に、あすなろ村の情報や出来事をお届けしています。

○あすなろ村夏遊会

７月 30 日、住民主体の夏祭りを開催しました。

避難所などから集まってきた住民たちが新たなコミュニティを構築しようとしていることは『支援だより』でもお伝えしてきましたが、この日は住宅内の公園で流しそうめんや、里美太鼓の演奏などを行い、大人も子どもも盛り上がりました。

●東松島で「パラソル喫茶…仮設住宅へのコミュニティに参加して」(ゆづり葉／杉本依子)

「東日本大震災復興 NPO 支援・全国プロジェクト」の一環で実施されている仮設住宅へのコミュニティ支援活動に、８月６～７日に参加させていただいてきました。

５・６・７月と第一日曜日に東松島で、被災者が集い

交流する場を支援する「パラソル喫茶」（阪神大震災の支援活動で生まれ、波及したコミュニティ支援ツール）がこの中心企画として開催されています。

今回の「パラソル喫茶」は、奥松島ひびき工業団地の仮設住宅での、夏祭りと寺子屋企画でしたので、事前に、ちらしを配布しながら戸別訪問し、移動のニーズを調査してきました。

＊

「パラソル喫茶」がすでにみなさんに認知され、パラソル軍団と呼ばれています。周辺も含め 150 件の仮設に広報し、数百人の人が参加してくれました。パル生協が焼き鳥、フランクフルトを、こちらも焼きそばを 300 食用意しましたが、 ビール（住民の希望で、ビールのみ１杯 100 円）のタンクが１本 10 分でなくなる大盛況で、63 人のボランティアが汗だくで働き、最後はイージーライダー長谷川さんの出張歌声喫茶で大盛り上がりでした。

用意したパラソル以外に、自分たちで手作りしたパラソルが夕方になると家の横に出され始め、ご近所のコミュニティが芽生え始めているのが垣間見られました。

駐車場にはたくさん車が並んでいましたが、高齢者のみの住人は車を持っておらず、東松島市が無料臨時バスを午前と午後２便ずつ出していたり（バス停までは数分）、なるせ泉の介護タクシーもありますが、やはり外出は思い通りにはできていませんでした。

私は、寺子屋で子どもたちと宿題や工作・墨・絵の具を使った遊びや、東京都東村山市中央図書館から借りてきた本を読んだり、いっぱいふれあうことができました。

中に３.11 の体験を話し創めた 11 歳の男の子がいて、恐怖から抜け出して人に話せるまでに心が回復したのかも？と壁にもたれながら２人でおしゃべりしました。

しんみりしていると、慶応大の学生が持参したグローブを見つけ、元高校球児のお兄さんと元気にキャッチボールに飛び出して行きホッとする一幕もありました。

移動については、聞き取りの中で、避難所で自車を使ってみなさんの送迎をしていた方が２名いらっしゃり、夜のお祭りで、村長さんたちともお話ししました。

当然ながら事故などリスクの話題も出て、すぐに動き始めるというわけにはいきませんが、「日本財団助成申請した石巻で開催予定の研修もツールに使いながら、少しずつ進めていけたら」と思って帰京しました。

●寄稿Ⅰ　石巻で「2011 年夏…石巻で感じたこと」（ぎふ市民協／中谷芳孝）●●●●●●●●●●●●●●●

日本が背負った原発事故を伴う大変な災害を日本人の一人として実感しておきたいとの思いも持って、石巻に出かけました。災害避難生活の中でどうしても後回しにされる「足の確保」に対して、移動サービスが必ず必要になることが改めて確認できました。

８月 13 日～19 日まで、北海道、東京、横浜、大阪のボランティアの仲間と一緒に、毎日 30 件～40 件ぐらいの移動サービスに携わりました。通院、透析通院、市役所、買い物、親戚、お墓参り、入浴、ショートステイ、避難所と自宅の行き来、仮設への引越しなどがありました。移動支援ボラ・Rera（アイヌ語で『風』）事務所の近くにお墓があり、地震で倒壊した墓石をみんなで起こしたこともありました。避難警報が出された「震度５弱」の怖い体験もありました。

石巻市、人口 16 万人、市内専修大学近くと女川へ行く途中の渡波（わたのは）地区にまさに「山のように」積み上げられた瓦礫を時折目にしましたが、本当に処理できるのだろうかの思いにかられました。余談ですが突如、隣の大崎市でキャンプしながら震災ボランティアに携わっていた義理の従兄（イギリス人）が石巻でボランティアしたいとたずねてきて、Rera の事務局・村島さんのお世話で石巻ボランティア支援ベース“絆”で、写真洗いやカヌーでの海の瓦礫掃除などをやって帰る出来事もありました。

現地には、さまざまなボランティア活動が「なんとか協議会」に登録され、日々夜会議で交流されているとのことでした。どんなところがどんな活動をしているのか知りたかったですが、今回はかなわず残念でした。

現地には震災前も移動サービスの活動がなかったということ、９月には運転者講習を開催し、現地で移動サービスを担う人材育成の取り組みが進められていることをお聞きして、「自分としては、10 月、11 月頃も移動支援ボランティアが必要なら再度検討します」と伝えて、石巻でのボランティアを終えました。

現地ではみなさんにお世話になり、ありがとうございました。

●寄稿Ⅱ　仙台から「みんなに支えられて…ささえ愛山元、その後」

（移動サービスネットワークみやぎ／菅原ふじ子）

3.11 の津波で、家族、スタッフ、家、事務所など、たくさんの大切なものを奪われてしまった NPO 法人ささえ愛山元の理事長中村さんは今、NPO の事業再開に向けて元気に奔走中です。

東京に住む子供の友人から送られた衣類などを届けたのは、ささえ愛山元の前事務所から数キロほど西側にある一軒の家でした。あの日も、ささえ愛のスタッフがデイサービスを行っていた家です。

１階まで津波が押し寄せ瓦礫やヘドロが流れ込み、2 階では津波の難を逃れた人たちの壮絶なドラマがあったとはとても想像できないほど、綺麗になっていたのです。

しかも 1 階はすべてバリアフリーにリフォームがされていたのにはビックリしました。

10 月 1 日を目標に、仮設住宅に居る高齢者の方たちにも呼びかけて送迎をし、この家を地域の人たちのサロンにしたい、と中村さんの夢は膨らみます。

『これまで、全国各地の大勢の方々から物心両面にわたって支えられ元気づけられた。これからは「ささえ愛」の原点に戻って自分たちが地域の人たちを支えみんなに恩返しをしていきたい。』と力強く語る中村さんの表情は明るく頼もしく感じられました。

▲左写真：東京在住の中村直子さん、古川恵子さん、大野寿子さんなどから送られた衣類やバックなどを届けました。

▲右写真：宮城県山元町でデイサービスを行っていた家。

１階まで水に浸かり、ヘドロやがれきが山のようにあったとは信じられないほど綺麗になりました。

●各種報告

1．第2回　だらだら話す災害支援の会（みやぎ NPO プラザ）

●「だらだら話す会（第 2 回）・報告（要約）」（ハンディキャブを走らせる会／鬼塚正徳）

7 月 26 日に仙台で全国移動ネット災害支援の会の（通称）だらだら会議（第２回）に、中村（ささえ愛山元）、山野上（横浜移動サービス協議会）、柿久保、菅原、杉本、鬼塚（全国移動ネット）の６名が集まりました。

（中村さんのお話） 山元町の介護事業の再開準備をしながら、被災地障がい者支援センターみやぎ亘理町拠点の事業を開始している。他県から支援に来てくれた介護や医療の職員の任期が終わって、避難所で奇声をあげている子供に対応していた保健士さんがいなくなる。地元の看護師さんやヘルパーの活用が必要。障がい者支援センターのチラシを、ゴーヤの苗と一緒に亘理町と山元町に配ったら、自閉症の子のケース相談など、震災前から行政や福祉制度が対応できていない人たちの相談がきている。震災から４カ月すぎて、ようやくささえ愛山元のメンバーも元気になってきた。福祉車両を含めた数台の車の寄贈を受けて、移動サービスも再開する予定。

（支援にくる方々に対するサポート） 仙台から朝５時ころ石巻に出かけて行く人達は大変だ。達成感だけでやっていても疲労はたまる。せっかく仙台に来たのだから、一日くらいゆっくりして欲しい。 横浜から支援には４人ぐらいが固定してきているが、石巻の移送レラがやっている間は、まだ協力できると考えている。たしかに５時起きで仙台から石巻に行くのは大変で、ゆっくり休めるところは必要。長期に支援で来ている人たちの支援をその地域の人たちに、食事ボランティアなどでやってもらえると良いが……。

（仮設住宅での生活の移動支援） 仮設住宅にはいると自力で生活しなければならないことがハードルとなっている。 孤独死も増えていく可能性が高いことから、グループホーム的な仮設住宅も試しに作っているらしい。

仮設住宅の 150 軒程を対象に安否確認をするＮＰＯや自治組織が必要で、そこが送迎サービスや介護サービスを

合わせてやるようにできればと思う。仮設に移るタイミングでの被災者の移動の問題を調査したい。少なくとも車１台と運転者１人いれば活動は可能になる。

（今後の支援の方法や内容） 国には災害時の生活交通に対応する制度や施策の用意が無かった。被災者に金があろうがなかろうが支援する時期はあるが、駅前のタクシー待ちの状況を見ていると、被災者も経済的格差が出てきていると感じる。自家用有償運送にしたら制度の壁があることから、移送レラは無償でやっているが、被災地の自家用車での運送を 100 円／kmとか、1000 円／時くらいを助け合いの実費とみなすことができないか。

（運転者講習会の開催） 被災者が自らの活動として、移動サービスを提供する活動の立ち上げを支援する。10 月中を目標に被災者や支援者を対象として、亘理町の拠点と石巻市周辺か仙台市の２か所で無料の運転者講習会を計画する。移動ネットみやぎの修了証を発行する。移送レラとも連携して、宮城県、県社協などに協賛を依頼する。

2.「被災地における生活移動の保障の提言」について報告（概要）

●「ＪＣＮの省庁との定例会議にて」（移動サポート／山本憲司）

８月４日にＪＣＮ（東日本大震災支援全国ネットワーク）が主催するＮＰＯと省庁との定例会議にて、ＪＣＮが新たに構成した「移動支援チーム」から、「被災地における生活移動の保障の提言」を提出した。提言は次の３つ。

①被災者や支援者が、創意と工夫に基づいて被災地での多様な移動手段を立ち上げようする自主的な動きを阻害することの無いよう、道路運送法等の規制につき柔軟な解釈・運用を行うこと。解釈・運用が不可能な場合には特区の活用や法令の改正を行うこと。②仮設住宅の建設、復興住宅の建設等にあたっては、必要な移動サービス（車を使った送迎）が受けられるよう政府、自治体が責任を持つと同時に被災者、支援者の自主的な動きを取入れること。被災地での移動サービスは、単なる運送だけではなく、病院・介護施設等への付添い等の生活の支援が含まれることを確認されたい。③被災前の市町村バスや一般路線バス、タクシー等のシステムにこだわらない新しい地域の移動システムを作り上げることを目指し、その中で新しい雇用を生み出すことを考慮されたい。

政府からの出席者は、辻元清美首相補佐官、国交省自動車局旅客課は谷口地域交通政策企画調整官、横田新輸送サービス対策室専門官他でした。残念ながらバスやタクシーの被害状況や既に行っている対応策や、NPO に対する運営協議会の合意形成のあり方検討会の結論を説明する程度で前向きな対応はなく、最後に辻元首相補佐官が「政府側としても移動が問題だと認識している。これは国土交通省だけの問題ではなく、 政府全体の問題だ。復興対策本部などのメニューとして NPO の意見も聞きながら考えていきたい」という発言で終わりました。今後、この提言をどう活かすか考えていく必要があります。

●お知らせ♪

◆ **被災地の移動支援ボランティアご協力のお願い**

現地での支援活動に基本的に手弁当で参加の意向をお持ちの方は、全国移動ネットへご連絡をお願いします。

◆ **被災地への支援物資調達のご協力のお願い**

全国移動ネットが仙台の拠点としているミキ自工・今野社長から、「支援している避難所に支援物資を届けたいので協力をお願いしたい」と再度依頼されました。

★送り先★

〒981-3117　仙台市泉区市名坂字新道９－１

有限会社ミキ自工　今野三男様宛（TEL:022-371-6630）

★送ってほしい物資：①冬物の衣類（ジャンパー・下着類）、②食料品（お米、缶詰など期限の長いもの）、③トイレットペーパー、おしめ、④毛布、等

（物資を送るダンボール箱の上に、梱包した物資のリストを表記してください）（災害支援の会事務局）

●募金活動

◆ご報告：あたたかいご支援に厚く御礼申し上げます。

お名前（2011.７.26-８.29　敬称略。順不同）

さが福祉移動サービスネットワーク

累計金額（８月 29 日現在）：2,251,842 円

◆支援募金お願い:引き続き、ご協力をお願い致します。

★お振込み先★（いずれかにご送金お願い申し上げます）

郵便振替　加入者名：NPO 法人全国移動ネット災害支援の会

口座番号：００１９０－１－６２３４５９

銀行口座　銀行名：みずほ銀行 千歳船橋支店（番号 154）

預金種目：普通預金 口座番号２１１１７１９

口座名義：全国移動ネット災害支援の会